



## 鶴の笛 (21)

お前たちがががつがつしなくなった  
だけでもかえって来てよかった。  
乙さんも甲さんもみんなかえって  
来てくれるとにぎやかにになってい  
いのにね。」

と申しました。

鶴のお父さんは、一ぷくたばこ  
を吸いながら、足の悪い鶴の笛の  
音にききとれていました。笛の音  
色はピヨロピヨロと涼し気な音色



## 鶴の笛 (22)

をたてています。

「あら、何だか、にぎやかな羽音が  
しますよ、誰かかえって来たので  
しょうか。」

やがて、金色の空から、一羽二  
羽、三羽四羽、村をすてていった  
鶴たちが笛の音色にさそわれても  
どって来ました。

「誰もいばらないで、みんなでわ  
けあって食べあう気持ならばかえ





## 鶴の笛 (23)

---

っていらっしやい。」

足の悪い鶴が申しました。

かえって来た鶴たちはよろこんで涙を流しました。

それからは、みんなで働きに行って、みんな仲よくわけあって食べました。——にぎやかな美しい鶴の国はいまもどこかにあるのでしょうか……。

きれいなところがいつもいい、

---





## 鶴の笛 (24)

まずしくてもこころはゆたか、  
みんなでわけあって、  
みんなで働いて、  
いつもきれいなこころで、  
みんな愛しあってゆきましよう。

鶴の笛は、いつもそういってピ  
ヨロピヨロとやさしくなっていた  
のです。

おわり

